

「知の地域創造」のビジョン
(「序章」市民フォーラム講演より)

経済活動による地方再生ではなく「知の地域創造」を
激動の時代に将来を見通し、若い世代に引き継ぐ図書館構想

多摩市民をめざす図書館 (第二章)
(「知の地域創造」のための市立図書館ネットワーク)

2-1 「知の地域創造」のための図書館

- 多摩市自治基本条例 (情報共有と市民の参画・協働)
- 第五次多摩市総合計画 基本構想 (将来都市像 まちづくりの基本理念)
- 多摩市立図書館の基本方針・運営方針 (市民の「知る」を支援する)

2-2 図書館システムとしての
多摩市立図書館

多摩市立図書館とは、
全市をおおう図書館サービスの
ネットワークの総体である

拠点図書館

通勤・通学・買い物に利便な場所
夜間開館や自動貸出など

地域図書館

子どもやお年寄りの日常生活圏
地域の暮らしに沿ったサービス

学校図書館

公共図書館と協力して児童・生徒へのサービス
ESD:生涯に学ぶ姿勢を身につける場所

ネットワーク網:アウトリーチ

保育園、高齢者向けなどの施設
図書館にアクセスが難しい場所

2-3 再生まちづくりの
担い手となる図書館

暮らしに役立つ魅力的な図書館
ニュータウン再生、故郷への帰属感など
多様な局面でまちづくりに大きな役割

- ① 多摩市の魅力向上
- ② 出会いの結節点
- ③ 多世代交流の広場
- ④ 地域コミュニティの相談者
- ⑤ ふるさと多摩市の記憶装置・発信基地

2-4 あたらしい多摩市立図書館への提言

- 図書館ネットワーク運営のためには 資料 職員 施設 の3要素のマネジメントが重要
- 図書館協議会の役割の重要性。
- 市民グループとの協働の試みも期待される

多摩市民を支える中央図書館 (第三章)
(「知の地域創造」センターにつながる、開かれた図書館)

中央図書館

図書館ネットワーク全体に必要なものです

3-1 中央図書館整備の
「使命」そしてあたらしい

3つの使命
(図書館協議会提言)

- ① 多摩市の図書館システムの中核
- ② 多摩市の文化・情報・教養活動の基地
- ③ 市民のコミュニケーションの向上

新たな「都市の広場」としての使命

- ① 子どもたちにとっての「愉快的ひろば」
はらっぱ、おまつりひろば
- ② ティーンズにとっての「たまり場」
新しい意味での学習スペース
- ③ おとなにとっての「知の広場」
ひとりの居場所、知的トレーニングジム、おだやかさを取り戻すラウンジ

3-3 基本的図書館サービスとあたらしいサービス

4つの担うべきサービス
(図書館協議会提言)

- ① 専門的で充実した図書館サービス
- ② 全域奉仕・分館支援・アウトリーチサービス
- ③ 全市図書館システムのセンター機能
- ④ 多様な市民活動を支えるサービスと場の提供

時代が求める新しい
図書館サービス

- ① 子育て広場 紙の絵本マルチメディアで本の提供
- ② アニメ、マルチメディア資料。ICTによる制作環境。グループ学習。ラーニング commons
- ③ 日常的な課題解決。働き盛りのための図書館。地域資料。ニュータウンアーカイブ。文化財展示。

3-2

中心地区につながる
開かれた中央図書館

アクセスしやすさ

- 人のアクセス 周辺の歩行者専用路 駅からのルートのバリアフリー化の期待
- 車のアクセス 駐車場の考慮を
- ミニバスの期待

中心市街地の都市構造と中央図書館候補地のイメージ

- 賑わいのゾーン 駅前 → パルテノン多摩 → 多摩中央公園
- 候補地周辺 図書館にふわさしい落ち着いたアカデミックな施設

中央図書館候補敷地と周辺のつながりのイメージ

安定した土地。緑にかこまれた落ち着いた環境。
開架2層で構成できて理想的。
駐輪場、駐車場が必要。
公園に開きつなげるための築山、竹木の整理

街とつながり、開かれた中央館の活動と環境のイメージ

アプローチの風景 北側の明るい印象づくり 緑陰の読書テラスやバルコニー 開かれた集会・展示ゾーン
ラーニング commons メーカースペース

3-4 市民協働で「もの」と「こと」のデザインを

- 「資料世界」「施設環境」「図書館職員」という3要素と「市民協働」
それぞれに「もの/施設」のデザイン と「こと/活動」のデザインが必要

センター機能
支援機能

多摩市民の図書館の今(第一章)
(多摩市立図書館の現状と課題)

1-1 多摩市のいまと
図書館政策

- 人口の状況
人口横ばい
生産年齢の減少
急速な高齢化
- 多摩ニュータウンが
市域の6割を占める
- 公共施設の建替え
負担
「多摩市公共施設の見
直し方針と行動プロ
グラム」
- 図書館運営に関す
る市議会からの評価

1-4 多摩市の図書館
政策研究の経緯

- 多摩市立中央図書
館基礎調査報告書
(平成2年)
- 多摩市総合計画
(第三次、第四次)
- 中央図書館に関する
図書館協議会からの答
申
(平成10年、平成22年)
- 多摩市まちづくり討
議会報告書(平成19年)
- 多摩市読書活動振
興計画(平成28年)

1-2 多摩市の
図書館サービスの現状

- 成長と
サービスシステム
年間68万人の貸出利用
貸出冊数 173 万冊
予約件数 47 万件
- ・ 市内7館1分室の図書
館施設群
- ・ 学校図書館とのネット
ワーク
- ・ 京王線沿線七市連携
- 市民の利用状況の特
色
・ 図書館の規模・役割・特
色に応じた使い分け
- ・ 「本館」
バックヤード機能
滞在型利用、講座
- ・ 「駅前拠点館」
通勤通学の便
資料の多さ
夜間、休日開館
- ・ 「地域館」
子どもや年配者も
歩いて行ける日常性

- 構築された資料群
管理システム
・ 館数が多く、年間の購
入資料費が少ない
- ・ リクエストに応える選書
構築
- ・ 返却された館に資料が
動くシステム

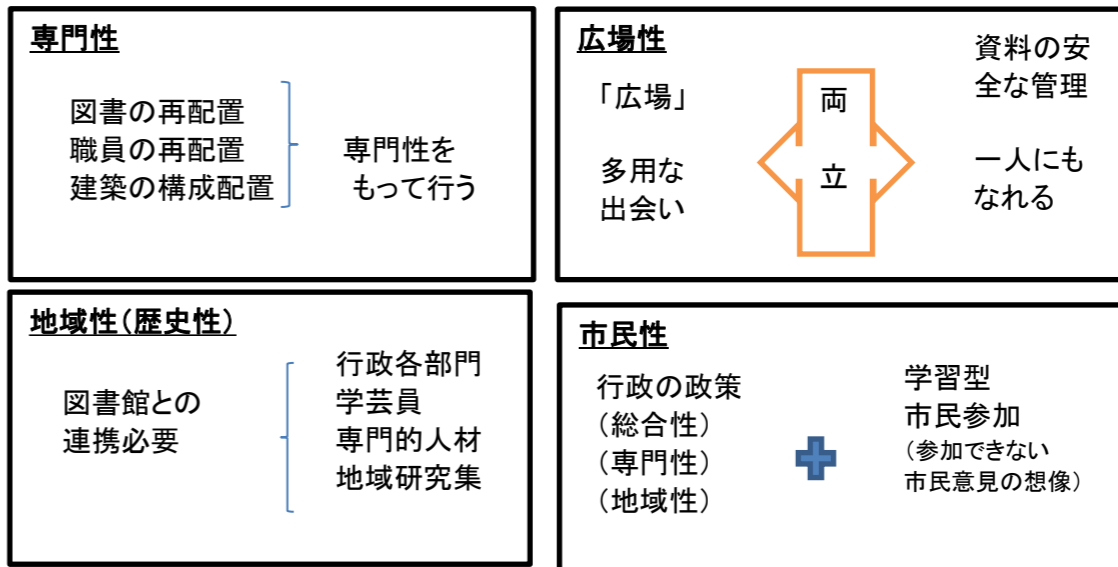
1-3 多摩市の
図書館サービスの課題

- 現在の本館の問題点
・ 駅から徒歩15分、駐車
場が狭い
- ・ 床の耐荷重の問題で蔵
書収容力が低い。資料
が各館に分散配置
- ・ 書庫(元教室)に空調が
無い
- 多摩市立図書館の抱
える課題(多摩市読書活
動振興計画より)
・ 暫定活用も含めた施設
の老朽化
- ・ 資料費の確保と人件費
- ・ 職員の先細り
- ・ ICTの活用による新たな
情報提供や業務効率化
など
- 多摩市立図書館の現
在の蔵書の特徴とその課
題
・ 多摩市の本館では、市内
蔵書の24.8%しかアクセス
できない
(浦安市や調布市の中央
館では80%以上の蔵書に
アクセスできる)
- 図書館の課題に対す
るその他の市民意見の洗
い出し
・ そのほか、報告書、市民
アンケート、行動プロ
グラムのパブリックコメントに現
れる市民意見

解決に
向けて

中央図書館づくりの進め方(第四章)
(今後の計画、設計を進めるために)

4-1 図書館計画に欠かせない 4つの視点



図書館に必要な 3つの要素

4-2 資料:資料世界構築と開架室の配架表現

- ① コレクション構築
長期的展望で資料を収蔵・保存 館ごとの特色
- ② 開架表現
資料の関連付け配架 CD・漫画など形態を超えて総合化
- ③ 相談業務
充実したレファレンス・課題解決 市の行政や議員へのサービス
- ④ 資料保存
拡張性のある書庫機能 準開架や公開書庫の研究

4-3

職員:大切な図書館員の専門性と職員組織づくり

- ① 市の直営による図書館運営
その目標の利点と意義の確認
- ② 職員の専門性の向上、研修方式の研究
係縦割りを横断するチームの研究
- ③ 人件費の縮減と資料費の拡大
業務そのものの見直し、労働環境への配慮
- ④ 仕事分担、仕事時間の合理的見直し
人的資源の再配分
- ⑤ 開館時間・開館日の見直し
人件費の縮減

4-4

施設:機能的/快適/魅力的/経済的な施設づくり

- ① 機能的であること
緻密な方針を準備
図書館建築を熟知した設計者の選定
- ② 快適であること
利用者の快適 本の居心地 地球環境
- ③ 魅力的であること
また来たい 広場の共用部 集会・展示
- ④ 経済的であること
可変性・拡張性 運用に最小限の職員
トータル・ライフサイクルコストの低減